

小学校
算数科小学校算数科における
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが大切です。

その際、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図るようにしましょう。



「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」p.322 を基に作成

小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」の視点

児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなどしているか。

「対話的な学び」の視点

数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げ深めているか。

「深い学び」の視点

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして思考や態度が変容しているか。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」pp.322-323 を基に作成

「深い学び」の視点に関して、学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。「数学的な見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い「深い学び」につなげることが重要です。



「数学的な見方・考え方」とは

数学的な見方……事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること

数学的な考え方…目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考えること

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」pp.22-23 を基に作成

令和6年度プロジェクト研究（小学校算数科教育研究委員会）では、上記のことを踏まえ、小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る授業づくりについて考えていきます。

☞ [「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために](#)